

2019年11月28日
株式会社日本政策金融公庫
総合研究所

日本公庫総研レポート

『IT活用で厳しい経営環境に立ち向かう中小金型製造業』を発行

日本政策金融公庫総合研究所では、日本公庫総研レポート『IT活用で厳しい経営環境に立ち向かう中小金型製造業』を発行しました。

リーマン・ショック以降、中小金型製造業者の経営環境は厳しさを増しています。そうした状況に対応するため、近年は、センサー技術やAI、3Dプリンターといった新たに発展してきた情報技術（IT）を積極的に活用する企業がみられます。

そこで、本レポートでは、金型製造業者へのインタビューを通して、新たなITの活用策を中心に、厳しい経営環境に立ち向かう中小金型製造業の生き残り策を探りました。

本レポートの概要は以下のとおりです。

本レポートの概要

1 グローバル化のなかで取り巻く環境は厳しい

取引先が海外移転を進めていることに加え、海外メーカーの技術力向上を背景とした金型の輸出の伸び悩みと輸入の増加などにより、国内の金型の出荷額は低水準で推移している。

2 ITを活用した戦略

(1) 大幅な効率化で採算を確保

AIを活用して見積もり作業を効率化したり、センサー技術やAIを活用して金型の不具合を調整する時間や、使用する工具の寿命を判定する時間を短縮したりして、大幅なコストダウンを図っている。

(2) 技術による金型の差別化

3Dプリンターを活用して、樹脂を素早く冷却できる金型や、通気性がよく成形品を取り出しやすくなる金型など、付加価値の高い金型を開発し、他社との差別化を図っている。

(3) 周辺市場や新市場の開拓

金型設計のノウハウを生かし、2次元の図面を3次元化するサービスや、センサー技術を活用して顧客の金型の破損を事前に通知するといったサービスを提供して、周辺市場や新市場を開拓している。

(4) 技術の承継と標準化

ITや機械設備を効果的に活用して技術を標準化している。ITで代替できない職人技は、動画によるマニュアルを活用したOJTなどの地道な人材育成により、若手に承継していく。

※本レポートの全文につきましては、[こちら](#)をご覧ください。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所 中小企業研究第二グループ（担当：松井、足立）

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー TEL 03-3270-1269